

## 42-4 キキョウ

*Platycodon grandiflorus* キキョウ科キキョウ属

### 品種

アストラシリーズ、センチメンタルブルー  
美里紫（わい性種、濃紫色、大輪）



### 性状・環境

日本、中国原産の宿根草。  
最適 pH5.5~6.0。  
耐寒性は強い。光を十分に当てる。  
発芽適温は 20°C。  
促成時の生育後半、徒長を防ぐため通風をよくする。

### 育苗・鉢上げ及び管理

4月にプラグトレイには種する。覆土は種子が隠れる程度。6月に本葉2~4枚時に3号ポットに鉢上げ、1月下旬に4.5~5号鉢に鉢替えする。株の肩を出して浅植えにする。  
培養土は赤土5:腐葉土5。鉢上げ後に緩効性の化成肥料を鉢当たり10g程度施用する。鉢上げ後は無加温で管理し、3月に芽の長さを揃えて摘心する。

### 病害虫・出荷など

病害虫：切り花の項を参照  
出荷：6月に頂嚢が割れかけたものから出荷する。白の品種を2割程度混ぜた方が良い。

## 42-5 クチナシ

*Gardenia jasminoides* アカネ科クチナシ属

### 品種

- 木村四季咲（主力）
- ※分枝性が良く着花数が多い  
ニューガーデニア
- ※大株になりやすく花数はやや少ない  
コクチナシ
- ※加温促成すると落雷するので無加温栽培に適する。



### 性状・環境

日本、中国原産の花木。生育適温は 20~25°C。

好適 pH は 5~6。

4 月下旬から新芽が伸び出し、6 月下旬~7 月下旬にかけて新芽の先端に花芽(1 番花)を分化する。その後 1 番花の直下から 2~3 本の側枝が伸び、その先端に 8~9 月に 2 番花を分化する。1 番花はほとんど発達せずに落蕾し、2 番花芽が越冬して翌年に開花する。秋の低温と短日で休眠に入り、1 月中旬ころまでに解除される。花芽発達は 17°C で長日が良く、促成時 35°C 以上で落蕾しやすい。

### 育苗・鉢上げ及び管理

挿し木の場合、5~6 月に新芽が固まった頃、赤土に挿す。2 カ月後に 2.5~3 号ポットに鉢上げし、鉢上げ後活着したら 1 か月間隔で 2~3 回摘心をする。1~2 月に 4.5 号鉢へ鉢上げする。寄せ植えする場合は、5~6 号鉢へ鉢上げする。6 月以降摘心を繰り返して枝数を増やす。最終摘心は 8 月 5 日とする（適期は 7 月下旬）。

培養土は赤土 5 : 腐葉土 5。鉢上げ後に緩効性の化成肥料を鉢当たり 10 g 程度施用する。鉢上げ後は無加温で育成し、11 月下旬~3 月下旬まで保温する。

挿し木から 22 ケ月後の 4 月以降に出荷となる。出荷時期を早めたい場合は、1 月上旬から 18°C で加温し、換気温度 28°C で管理すれば 3 月下旬から出荷できる。

### 病害虫・出荷など

病害虫：褐色円星病 さび病 すす病

害虫：オオスカシバ カイガラムシ類 ハダニ類

出荷：実つきの状態であれば 10~2 月の間でも出荷できる。

## 42-6 グロキシニア

*Sinningia speciosa* イワタバコ科シンニンギア属

### 品 種

F<sub>1</sub> ブリケードシリーズ(八重)

### 性状・環境

ブラジル原産の1, 2年草。

生育適温は20~25°C (15°C)。

培養土はやや重い肥沃土が適する。

光は8,000~20,000 ルクス、直射光は葉焼けをおこしやすい。

花芽分化は長日で、一定以上生育して開花する。



### 育苗・鉢上げ及び管理

9~10月上旬にセルトレイまたは箱に播種する。好光性種子なので覆土はしない。箱まきの場合、本葉が出始めたら(12月頃)育苗箱へ2~3cm間隔で移植する。温度は20°Cに保つ。本葉4~6枚になった2月に3.5号鉢に鉢上げする。

培養土は赤土5:堆肥3:牛糞2。4.5号に鉢上げ後、緩効性粒状化成肥料を鉢当たり7~10粒程度施用する。葉焼け防止のため、葉の上から灌水しない。大葉にならないように灌水でバランスをとる。

### 病害虫・出荷など

病害虫:、灰色かび病 アザミウマ類

出荷:1~2輪咲いた4~6月に、色あわせをして出荷する。

## 42-7 ディモルフォセカ

*Dimorphotheca spp.* キク科ディモルフォセカ属

### 品種

テトラゴリアス, スプリングフラッシュ  
ディモルフォセカ・プルビアリス (*D. pluvialis*)



### 性状・環境

南アフリカ原産で、排水の良い砂質土壤に自生する1年草。

オステオスペルマムは、以前はディモルフォセカ属に含まれていたが、現在は耐寒性1年草をディモルフォセカ、宿根草のものをオステオスペルマムとして区別している。

### 育苗・鉢上げおよび管理

9~2月播種で3~5月出荷。播種後1ヶ月くらいで3号鉢に鉢上げする。0°Cくらいまで耐えるが、強い霜に当たると枯れる。秋まきでは冬季1~2°Cの加温で栽培できる。

厳寒期の播種は十分加温する。株が大きくなったら仕上げ鉢に定植する。施肥は基肥に緩効性肥料を1~2g施用し、鉢上げ後活着したら窒素濃度100ppm程度の液肥を週1回を目安に施用する。

窒素が多すぎると軟弱となり、草姿が乱れるので注意する。培養土は排水の良いものを使用し、過湿とならないように注意する。

株が4~5cmくらいに伸びた頃にピンチを行うとボリュームがつく。

### 病害虫・出荷など

アブラムシ類、ヨトウムシ類  
数輪咲いたら出荷する。

## 42-8 ハゴロモジャスミン *Jasminum polyanthum* モクセイ科ソケイ属

### 性状・環境

中国西部原産、常緑性のつる性花木。  
培養土は水はけが良いもの。  
半耐寒性で0°C以下になると枯れる。  
直射光のもとで生育良好。耐暑性は強い。  
促成時の生育後半、徒長を防ぐため通風をよくする。  
花芽分化に2~3°Cの低温が約30日間必要。



### 育苗・鉢上げ及び管理

挿し木した発根苗を2.5号ポットで育苗する。培養土は腐植質に富んだ排水性の良いものとする（赤土60%・腐葉土40%）。約1~1.5ヶ月育苗した後、4~4.5号鉢に鉢上げする。元肥として、ロング肥料等を鉢あたり1~2g混合する。

ピンチは1~2回行うが、最終ピンチは9月下旬までとする。

10月下旬頃までは露地で管理し、霜の降りる11月になったら無加温ハウスに移動する。花芽分化を促進するために、1~2°Cを基本にかん水もやや控えめにする。蕾が確認できたら徐々に温度を上げ、最終的には12°C加温とする。日照不足は花飛び、着色不足を起こすので十分日光にあてる。

### 病害虫・出荷など

病害虫：高温時にハダニ類が発生するが、比較的病害虫は少ない。

3月~4月が出荷時期。頂点で十文字にした行燈仕立てとする。

## 42-9 フクシア

*Fuchsia hybrida* アカバナ科フクシア属

### 品 種

- ロイヤルベルシリーズ
- エンジェルス・イヤリングシリーズ
- ディーバシリーズ

### 性状・環境

南アメリカ、ニュージーランド原産の花木。  
最適 pH4.5~6.0。  
耐寒性は強いが高温多湿に弱い。光を十分に当てる。  
生育適温は 15~20°C。



### 育苗・鉢上げ及び管理

9~10月に頂芽 4~5 cmをバーミキュライト+パーライト、鹿沼土へ挿す。2月に 4.5 号鉢へ3本寄せ植えで鉢上げする。その後、3~4節を残して摘心し、摘心後に伸びた側枝は2節を残して摘心を繰り返す。最終摘心は出荷 50 日前が目安。

培養土は赤土 6 : 腐葉土 3 : バーミキュライト等 1, 育苗中は培養土の水分を切らさないようにして、側枝を確保する。

鉢上げ活着後に緩効性粒状化成肥料を 5~10 粒施用する。

花芽分化発達には 25°C 前後の高温と強光が必要となる。蕾が豆粒状になったら支柱を立てる。  
夜温は 10°C 以上、生育後半は徒長させない。

### 病害虫・出荷など

病害虫：オンシツコナジラミ ダニ類 カイガラムシ類  
出荷：3~5 月に花が 3 輪以上咲いた頃

## 42-10 マーガレット

*Argyranthemum frutescens* キク科アルギランセラム属

### 品種

白、黄色、ピンク系、赤系  
一重～八重咲、丁子咲  
近年育種が進み、品種が多様化  
モリンバシリーズ、ダイシニシリーズ、アルプス、  
マーズ、メティオールレッド、コメットピンク、  
エンジェリックシリーズ、サマーソングシリーズ



### 性状・環境

最適 pH6.5～7.5  
生育適温 15～20°C (10°C以上)  
耐寒性弱く、夏の高温多湿に弱い。  
花芽分化 20°C。  
光は充分当てる。遮光はしない。  
原産地 カナリア諸島

### 育苗・鉢上げ及び管理

苗購入の場合は直接仕上げ鉢に植えるか、一旦 3 号程度のポリ鉢に植えて一定期間生育させた後、仕上げ鉢に植え替える。  
自家増殖の場合は 9 月下旬 4～5 節に切り、連結ポットに挿す。4 週後 (10 月中旬)、5 号鉢に鉢上げする。  
鉢上げ後 2 週間 (10 月下旬) で摘心し、その後過剰な水や施肥を避け、日中の温度上昇に注意とともに通風を図るなどして側枝の徒長を防ぐ。  
培養土は赤玉 3、ピートモス 5、パーライト 1、くん炭 1。鉢上げ後に液肥を EC0.7dS/m で 1 日 1 回、出荷の 1 ヶ月前には 5 号ポットで IB 化成 10 個程度施す。

### 病害虫・出荷など

病害虫：青枯病、萎凋病、褐斑病、菌核病、黒斑病、さび病、斑点病、雪腐病  
ヨトウムシ類、アブラムシ類、ハマキムシ (シンクイムシ)  
早ければ 1 月下旬から、最盛期 3 月頃にかけて出荷。出荷は株の数輪が開花し始めれば可能。

## 42-11 ラベンダー *Lavandula* シソ科ラベンダー属

### 栽培上の留意点

- 1) 地中海沿岸原産で過湿に弱く、多灌水は蒸れや根腐れを引き起こすため、乾燥気味に管理する。
- 2) 常緑小低木であり、多肥は根傷みの原因となるため避ける。



| 月        | 1              | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12                        |
|----------|----------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|---------------------------|
| 4~5号鉢仕上げ | ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    | (耐暑性が低い品種は遮光)<br>→→→→→→→→ |

↓ 插し芽    ▽鉢上げ    ×摘心    →遮光    ◆加温    ■出荷

### 品種

<イングリッシュラベンダー (*Lavandula angustifolia*) > エレガンスシリーズ、センティヴィア、アロマティコ、ラバンスパープル、サンベリーナ、シャインブルー等

### 繁殖

3月頃に枝先(天芽)を長さ10cmほど切って育苗ポットに挿す。自家培養土を使用する場合は、赤土、ピートモス、くん炭等を混合し(配合割合はシクラメンの播種準備に準じても良い)、消毒をする。ラベンダー専用の培養土も市販されている。生育好適pHは5.5~6.5。

### かん水

過湿に弱いため、鉢土が乾いてからかん水する。株全体に水がかかると葉蒸れの原因となるため、株元にかん水する。

### 鉢上げ

1回目は4月頃に3号鉢に鉢上げする。2回目は1月頃に4~5号鉢に鉢上げする。土は市販培養土または自家培養土を使用する(自家培養土の配合割合はシクラメンに準じても良い)。活着後、液肥(20-20-20)を低濃度で施す。

### 摘心

9~10月頃に2回ほど摘心(ピンチ)を行う。頂芽のみ摘心して、腋芽発生を促す。

### 温度管理

イングリッシュラベンダーは耐寒性が高いが、厳寒期は加温する。昼間は16~22°C、夜間は12~18°Cを目安に温度管理する。

### 病害虫

病害: 灰色かび病、褐斑病

害虫: アブラムシ、ハダニ

### 出荷

開花始期が出荷適期となる。

### ラベンダーの主な種類

イングリッシュラベンダー(コモンラベンダー)、ラバンディン(*L. × intermedia* イングリッシュラベンダーとスペイクラベンダー(*L. latifolia*)との交配種)、フレンチラベンダー(*L. stoechas*)、デンタータ(*L. dentata*)、ピナータ(*L. pinnata*)等がある。イングリッシュラベンダーは耐寒性は高いが耐暑性が低く、フレンチラベンダーはイングリッシュラベンダーに比べて耐寒性は劣るが耐暑性は優れる。ラバンディンは両者の中間。

## 1 花壇苗の作型表

| 種類             | 1     | 2     | 3     | 4 | 5    | 6     | 7       | 8    | 9     | 10   | 11 | 12 |
|----------------|-------|-------|-------|---|------|-------|---------|------|-------|------|----|----|
| アゲラタム          |       | ..    | —○—   |   | ■    |       |         |      |       |      |    |    |
| インパチエンス        |       | ..    | —○—   | ■ |      |       |         |      |       |      |    |    |
| イソトマ           | ○—    |       |       |   | ■    | ■     |         |      |       | ..   | ○— |    |
| ガザニア           |       |       | ■     | ■ |      |       |         |      | ..    | —○—  |    |    |
| キンギョソウ         |       | ..    | ○—    | ■ | ■    |       |         | ..   | ○—    | ■    |    |    |
| クリサンセマム        | ..    | —○—   | ■     | ■ |      |       |         | ..   | —○—   | ■    |    |    |
| コリウス           | ..    | ○—    |       | ■ | ■    |       | ..      | ○—   | ■     |      |    |    |
| サルビア           | ..    | —○—   | ■     |   |      | ..    | —○—     | ■    |       |      |    |    |
| ジニア            |       |       | ..—○— | ■ | ■    |       | ..—○—   | ■    |       |      |    |    |
| シバザクラ          |       |       | ■     | ■ | ○—○— | ○—○—  | ○—○—    | ○—○— | ○—○—  | ○—○— |    |    |
| デージー           |       |       | ■     | ■ |      |       |         |      | ..—○— |      |    |    |
| トレニア           | ..    | —○—   | ■     |   |      | ..—○— |         | ■    |       |      |    |    |
| ナスタチウム         |       | ..—○— |       | ■ | ■    |       |         |      |       |      |    |    |
| ハナスベリヒユ        |       |       | ↓—○—  | × | —○—  | ■     |         |      |       |      |    |    |
| バーベナ           |       |       | ■     | ■ |      |       |         |      | ..—○— |      |    |    |
| ハボタン           |       |       |       |   |      |       | ..—○—○— | ■    |       |      |    |    |
| ポットハボタン        |       |       |       |   |      |       | ..—○—○— | ■    |       |      |    |    |
| ビンカ            |       |       | ..—○— | ■ | ■    |       |         |      |       |      |    |    |
| ベゴニア・センパフローレンス |       | —○—   |       | ■ | ■    |       | ..—○—   | ■    |       |      |    |    |
| ペチュニア          | ○—    |       | ■     | ■ |      |       |         |      |       |      |    |    |
| マツバギク          |       |       | ■     | ■ |      |       |         |      |       | ↓—   |    |    |
| マリーゴールド        | ..—○— |       | ■     | ■ |      |       | ..—○—   | ■    |       |      |    |    |
| ロベリア           |       |       | ■     | ■ |      |       |         |      | ..—○— |      |    |    |
|                |       |       | ..—○— | ■ |      |       |         |      |       |      |    |    |

(..は種 ↓さし芽 ○移植 ◎定植 ×摘心 ■出荷)

## 2 パンジー

*Viola × wittrockiana* スミレ科 スミレ属

### 栽培上の留意点

- 1) 秋出しは、高温期の播種となるため地温の上昇を抑えるようにする。
- 2) 作型、用途により品種を選定する。



| 作型 月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| 秋出し  |   |   |   |   |   |   | ↓ | ▽ | — | ■  | —  |    |
| 春出し  | — | — | ■ | — | — | — | — | — | — | —  | —  | —  |

(.:は種 ▽鉢上げ ■出荷)

### 品 種

パシオシリーズ、アリルシリーズ、LRシリーズ、ナチュレシリーズ、きらりシリーズ、わらくシリーズ等がある。

### 育 苗

種子は4,500粒／10ml、セル成型育苗の場合、プラグトレー288～406穴を使用する。

培養土は、購入用土（メトロミックスやシステムソイル）等を使用し、覆土は種子が隠れる程度とする。

秋出しは発芽率をよくするため、播く前に種子を10°Cで10日程度低温処理しておくと発芽が良くなる。播種後、18～20°Cの予冷室に入れておくと発芽揃いがよくなる。播種後4～5日で発芽するので、ダイオミラー等で遮光（50%程度）したハウスに移す。また、最近はプライミング種子が多く出回り、予冷室に入れなくても高温期の発芽率が向上している。この場合は播種後に十分かん水して新聞紙等で覆い、乾燥防止に努め、遮光したハウス内で発芽させる。

遮光ハウス内は、循環扇等を使用し空気を循環させ、できるだけ温度を下げるよう努めるとともに、病気が発生しやすいので過湿に注意する。

また、特に夏期は苗が徒長しないような管理に努める（植物成長調整剤の利用等）。

### 移 植

播種後30～40日位で本葉4～5枚位に生育したものを3～3.5号ポットに子葉がかくれないよう移植する。

### 培養土配合

赤土と牛ふんの堆積土5：腐葉土かピートモス3：もみ殻1：くん炭かパーライト1に配合し、pH5.5～6.5になるよう改良資材等で調整する。生育が均一になるよう培養土を均等に混合する。夏期は濃度障害が発生しやすいので、堆肥の入れすぎ等に注意し、EC1.0dS/m以下になるようにする。

## **施 肥**

セル成型育苗は、本葉が出始めたら、必要に応じ窒素 35～50ppm 位の液肥を追肥する。

ポット上げ後の追肥を省力化する場合は、元肥として緩効性肥料を培養土 1 リットルあたり 3 g 程度均一に混合する。

元肥を混合しない場合、ポット定植後、活着したら葉色を観察しながら液肥や化成肥料 (10-10-10) 2～3 粒を施用する。

## **温度管理**

ハウスでは冬期でもサイド、入り口等を開放して栽培する。1～2 月の厳寒期に下葉が紫褐色に著しく変色するときはタフベル等保温資材を夜間のみ被覆する。

## **病害虫**

糸状菌病：立枯病　べと病　さび病　黒斑病　黒かび病　炭疽病　灰色かび病

　そうか病　根腐病　黒点病

害虫：アブラムシ類

## **出 荷**

一輪咲いたら出荷する。

### 3 花壇苗の特性および栽培のポイント

| 種類<br>(種子の量)  | 品種  | は種・移植・鉢上げ及び管理  | 病害虫防除と出荷   |
|---|---|--|--|
| 1. アゲラタム<br>(キク科)<br>1,800 粒/ml<br>                | ブルーマリー<br>ブルーハワイ<br>ホワイトハワイ<br>ブルーダニューブ<br>アロハブルー<br>アロハホワイト  | 2~3月播き、発芽適温 20~25℃。種子が小さいので、市販の育苗用土などで浅い育苗箱にすじまきし、覆土はしない。<br>発芽後間引き、本葉 3 枚で 3~3.5 号へ鉢上げする。<br>根が浅く乾燥に弱いので、培養土の保水力を高くする。弱酸性がよく、アルカリ性でピンクが強く出る。窒素肥料が多いと栄養生長となり、花が少なくなる。  | 病害虫：ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ<br>出荷：4~5月                     |
| 2. インパチェンス<br>(ツリフネソウ科)<br>1.2 年草<br>700 粒/ml<br> | F <sub>1</sub> スーパーエル<br>フイン<br>F <sub>1</sub> アテネシリーズ<br>F <sub>1</sub> スターバース<br>トシリーズ<br>F <sub>1</sub> トウトウシリ<br>ーズ<br>F <sub>1</sub> アドバンテ<br>ジ系 | 2~4月は種、発芽適温 23~24℃。培養土はピートモス、パーライトなどの肥料分を含まないもの。薄く播き、好光性種子なので覆土はしない。<br>3~5日で発芽、30~40日くらいで 6~9cm ポットに上げる。  | 病害虫：アブラムシ<br>類、ホコリダニ、<br>アザミウマ<br>出荷：5~7月            |
| 3. ガザニア<br>(キク科)<br>宿根草<br>200 粒/ml<br>          | F <sub>1</sub> ニューデイシ<br>リーズ<br>F <sub>1</sub> デイブレイク<br>シリーズ<br>F <sub>1</sub> ビッグキス系<br>ミニスター   | 9~10月に播種、発芽適温 15~20℃。播種は市販の播種用土に行う。嫌光性種子なので、1cm 弱の厚さに覆土をする。播種後 40 日くらいで本葉 3~4 枚になったら、赤土 6 : 腐葉 3 : 牛糞堆肥 1 を混合した培養土などを使用し、鉢上げする。かん水は鉢培養土が乾いたら行う。窒素過多だと花首が伸びやすいので注意する。基肥は入れず、鉢上げ 2 週間後くらいに IB 化成を 5~6 粒程度施用する。冬季は凍らないようにハウス内で保温して生育させると 4~5 月の出荷となる。 | 病害虫：菌核病、葉<br>腐病腐病<br>出荷：3~5月。葉を<br>折らないように<br>注意して出荷 |
| 4. キンギョソウ<br>(ゴマノハグサ科)<br>2,000 粒/ml<br>         | フローラルシャ<br>ワー<br>フローラルカ<br>ペット<br>フェスタ<br>パレット<br>モンティゴ   | 1~2月に播種、最低温度 10℃ で 4~5 月の出荷。8 月播種では 11 月の出荷。発芽適温は 20℃ 前後。播種は市販の播種用土等に行う。好光性種子なので覆土はしない。種子の乾燥に注意する。本葉 2 枚で仮植、本葉 4~5 枚で 3~4 号鉢に定植。<br>有機物の十分入った排水の良い培養土で鉢上げし、鉢上げ後活着したら追肥を行う。   | 病害虫：菌核病、葉<br>枯れ病、アブラ<br>ムシ類<br>出荷：開花が十分揃<br>ってから行う   |

|  |   |   |  |
|--|---|---|--|
| <p>5. クリサンセマム<br/>(キク科)<br/>4,000 粒/ml</p>                                      | <p>パルドーサム種<br/>ノースポール<br/>ホワイトエン<br/>ジエル<br/>マルチコーレ種<br/>アップライト<br/>イエロー<br/>ムーンライト</p>               | <p>8~9月播種で年内出荷, 10月以降の播種で無加温管理し早春出しが可能。発芽適温 20°C前後。マルチコレは高温で発芽率が低下する。播種後5~10日で発芽し, 本葉3~4枚になったら鉢上げする。鉢上げには赤土5:腐葉3:川砂2等を用いる。鉢上げ後は十分に日に当てる。肥料が不足すると開花が悪くなるので適宜追肥を行う。</p>   | <p>病害虫: ハダニ類<br/>ア布拉ムシ類<br/>出荷: ポット苗は播種後65日, 鉢植えは5号鉢3本植で播種後90~100日</p> |
| <p>6. コリウス<br/>(シソ科)<br/>2,000 粒/ml</p>   | <p>レインボー(中葉)<br/>セイバー(緑葉)<br/>ケアフリー(菊葉)<br/>ウイザード(レインボーの改良種)<br/>ハイウェイ(矮性)</p>                        | <p>発芽適温 20~25°C。2~3月播きの場合, 発芽は10~15日かかる。浅い育苗箱に市販の育苗培土を使用して播き, 覆土はしない。発芽するまで遮光して乾燥を防ぐ。<br/>発芽後は 50%程度の遮光をする。双葉のうちか, 本葉2~3枚になったら 3~3.5号ポットに鉢上げする。培養土はピート4:赤土5.5:牛ふん堆肥0.5くらいとする。強光に弱い品種は葉焼けするので遮光して栽培する。窒素過多, 過乾燥は発色を悪くする。</p> | <p>病害虫: ハダニ類, アブラムシ類<br/>出荷: 5~9月。播種後 2.5~3ヶ月</p>                      |
| <p>7. サルビア<br/>(シソ科)<br/>スプレンデンス種<br/>130 粒/ml<br/>ファリナセア種<br/>500 粒/ml</p>   | <p>スプレンデンス種<br/>シズラー, レディー, フラメンコ, カラビニエル<br/>ファリナセア種<br/>ピクトリア, エボリューション, ナナ, シリウス, シグナム, ストーラータ</p> | <p>1~8月に播種, 発芽適温 20~25°C。播種後は覆土をしないか薄く行う。発芽には1週間程度かかり, スプレンデンス種は早く, ファリナセア種は遅い。播種30~40日後, 本葉3~4枚で鉢上げする。培養土は有機質に富んだ弱酸性のものを使用する。肥切れに注意する。4月まで 15°C程度の加温を行うと, 4~10月に開花する。</p>  | <p>病害虫: オンシツコナジラミ, アブラムシ類<br/>出荷: 4~10月。第1次花穂が開花し始めた頃</p>              |
| <p>8. ジニア<br/>(キク科)<br/>大輪系 20~30 粒/ml<br/>中輪系: 35~40 粒<br/>少輪系: 40~65 粒</p>  | <p>プロフェュージョン<br/>スターイト<br/>プラント<br/>ドリームランド<br/>ジニータ<br/>ザハラ<br/>ザハラダブル</p>                           | <p>3~6月播き。発芽適温 20~25°C。移植を嫌うので, 箱まきよりもセルトレイにまくか, ポットに直まきする。本葉4枚程度で鉢上げする。十分光に当て, 温度は最低 15°C程度を確保する。8月播種では 10月に開花。<br/>培養土は有機質に富んだ肥沃なものを使い, 十分な肥培を行う。</p>   | <p>病害虫: うどんこ病<br/>出荷: 頂花が開花した頃から</p>                                   |

|  |  |   |   |
|--|--|---|---|
| <p>9. デージー<br/>(キク科)<br/>2,000 粒/ml</p>                   | <p>エトナ<br/>太陽<br/>タッソ系<br/>ポンポンネット<br/>系<br/>ベラデージーシ<br/>リーズ</p> | <p>8月下旬～9月播き。発芽適温は15～20℃。浅い育苗箱に市販の育苗培土を使用してばら播きし、播種後は覆土しない。できるだけ涼しいところで発芽させる。極早生種では年内出しも可能。</p> <p>発芽後は十分日光に当てる。本葉2～3枚時に3号ポットに鉢上げする。</p>  | <p>病害虫：ア布拉ムシ類<br/>出荷：3～4月</p>                                 |
| <p>10. トレニア<br/>(ゴマノハグサ科)<br/>13,000 粒/ml</p>             | <p>カウアイシリーズ<br/>(ニュー) クラウンシリーズ<br/>サイクロンシリーズ<br/>ダッヂエス</p>       | <p>2～5月播き。発芽適温は20℃。種子は微細で、好光性なので覆土はしない。コーティング種子も販売されている。播種後10日くらいで発芽がそろう。発芽後は15℃以上で管理すると生育も早く、株張りも良好になる。</p> <p>播種30～40日後に鉢上げする。培養土は特に土質を選ばないが、肥沃な保水性のあるものを使用する。肥切れするとすぐに葉が黄化する。本葉4～5対で着蕾するので1度摘心すると側枝に一斉に花が付き、草姿が良くなる。</p> | <p>病害虫：うどんこ病、<br/>アブラムシ類<br/>出荷：5～9月。耐寒性が劣るので4月以前の早出しは控える</p> |
| <p>11. ナスタチウム<br/>(キンレンカ)<br/>(ノウゼンハレン科)<br/>数粒/ml</p>  | <p>チップトップ<br/>ホワリーバード<br/>メルバ</p>                                | <p>3～4月に播種。発芽適温は15℃で、嫌光性種子なので種子の2～3倍の厚さに覆土する。</p> <p>本葉2～3枚で鉢上げする。培養土は排水の良いものを使用する。窒素が多くなると茎葉が繁茂して花が咲かないでの、窒素を控えめにしてカリをやや多めに施す。最低10℃以上で管理する。</p>  | <p>病害虫：ハダニ類、<br/>ネコブセンチュウ<br/>出荷：数輪開花した<br/>ら花の向きを揃えて出荷する</p> |
| <p>12. ハナスベリヒュ<br/>(スベリヒュ科)</p>                         | <p>在来種<br/>(一重、八重)<br/>サンチュラカ®シリーズ<br/>ワイルドファイバー</p>             | <p>さし芽で増やす。さし芽の45日前に親株を刈り込み、さし穂の数を確保する。</p> <p>さし穂は新芽を4～5cmの長さに切り、9cmポット等に直接さす。15～20℃を確保する。株張りをよくするには3節程度伸長した時点で2節残して摘心を繰り返す。</p> <p>3月にポット直ざしで5月から出荷できる。</p>   | <p>病害虫：立枯病、ヨトウムシ類<br/>出荷期：5～8月<br/>鉢土がみえなくなった頃から出荷可能な</p>     |

|  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| <p>13. ハボタン<br/>(アブラナ科)<br/>160粒/ml</p>                       | <p>大阪丸葉<br/>華, 錦, つぐみ<br/>名古屋ちりめん<br/>衣, 赤ずきん,<br/>白ズキン, 紅<br/>鯢, 白鯢<br/>東京丸葉<br/>つぐみ</p>  | <p>6月下旬～8月上旬に播種。大株にしたい場合は早く播く。発芽適温は20～25°C。2cm間隔の条播またはセルトレイに播種する。発芽後は十分に日に当てる。徒長させないよう間隔を確保する。</p>  | <p>病害虫：苗立枯, ベ<br/>と病, アオムシ<br/>類<br/>出荷：11～12月。低<br/>温に当てて十分<br/>発色したら出荷</p> |
| <p>14. ポットハボタン<br/>(アブラナ科)<br/>160粒/ml</p>                   | <p>高性種<br/>バイカラート<br/>ーチ, ウィンタ<br/>ーチェリー, 初<br/>紅, 冬紅<br/>切葉系<br/>くじやく, さん<br/>ご, かんざし<br/>ちりめん系<br/>すずめ, かも<br/>め, ドレス<br/>丸葉系<br/>つぐみ, はと,<br/>傘</p> | <p>7月中旬～8月上旬に播種する。大株ほど早く播種する。発芽適温は20～25°C。200～288穴セルトレイに播き、種子が隠れる程度に覆土する。発芽後は良く日に当て、徒長を防ぐ。発芽後から窒素50～100ppmの液肥を週1回施用する。<br/>播種20～30日後、本葉4～6枚くらいになったら3号鉢に上げる。培養土には緩効性肥料を窒素成分で100～200mg/l程度、液肥やIB化成などで追肥を行う。</p>                 | <p>ハボタンに準ずる</p>  |
| <p>15. バーベナ<br/>(クマツヅラ科)<br/>170粒/ml</p>                    | <p>ベスタ<br/>クオーツ<br/>ロマンス<br/>オブセッション</p>   | <p>1～2月に播種、5～6月に出荷。秋まきの場合は9～10月に播き、凍らない程度の加温をして3～4月に出荷。発芽適温は20°C。覆土をする。2週間程度で発芽する。種子には発芽抑制物質が付いているので、ガーゼなどに包んで水に浸して良くもみ洗いしてから播く。<br/>本葉4～6枚で鉢上げする。培養土は赤土、ピートモス、腐葉土、完熟たい肥などを混合したものを使用する。生育をみながら置き肥や窒素濃度200ppm程度の液肥を適宜追肥する。</p> | <p>病害虫：アブラムシ<br/>類, ハダニ類<br/>うどんこ病</p>                                       |
| <p>16. ビンカ<br/>(ニチニチソウ)<br/>(キヨウチクトウ科)<br/>3,500粒/10ml</p>  | <p>リトル系<br/>タイタンシリーズ<br/>エクエイターシ<br/>リーズ</p>   | <p>3～5月播き。高温性植物なので、発芽適温は24～27°Cである。<br/>市販の育苗培土等を使用し、プラグトレイまたは育苗箱に播種し、軽く覆土する。本葉2～3対のときにポットに2～3本を寄せるか、1本植えにして摘心する方法がある。夜温は最低でも8°Cを保持する。高温管理で生育が早まる。</p>  | <p>病害虫：疫病, くも<br/>の巣かび病,<br/>アブラムシ類<br/>出荷期：6～8月</p>                         |

|  |   |  |  |
|--|---|--|--|
| <p>17. ベコニア・<br/>センパフローレンス<br/>(シュウカ イドウ科)<br/>18,000 粒/ml</p>  | <p>緑葉種<br/>アンバサダー<br/>シリーズ<br/>クイーンシリ<br/>ーズ<br/>スプリント系<br/>銅葉種<br/>セネタシリ<br/>ーズ<br/>ナイトライフ<br/>系</p>   | <p>11月～12月播き・4～5月出荷、5<br/>月播き・9月出荷。播種から出荷まで<br/>は比較的期間がかかる。</p> <p>288穴か406穴プラグトレイに市<br/>販の培養土等を使用して播種し、覆土<br/>はしないか乾燥防止のためごく薄く<br/>する。発芽まで種子を乾燥させないよ<br/>うに細心の注意をはらう。発芽適温<br/>20～25℃。</p> <p>発芽後は、苗が倒れないよう噴霧器<br/>などでかん水する。本葉5～6枚展開<br/>したら3号ポット、2月下旬～3.5～4<br/>号ポットに移植するが、深植えになら<br/>ないよう注意する。</p> <p>生育適温は15～18℃。生育期が夏<br/>期の場合、30～50%の遮光を行う。</p> | <p>病害虫：灰色かび<br/>病、茎腐病、疫病</p>   |
| <p>18. ペチュニア<br/>(ナス科)<br/>5,000 粒/ml</p>                      | <p>エコチュニア、バ<br/>カラ、ホライゾ<br/>ン、マンボ、クリ<br/>ーピア、カーペッ<br/>ト、イーグル、デ<br/>ィーバ、ロンド、<br/>ソフィスティカ、<br/>リンボ、ドルチェ<br/>※八重種<br/>デュオ、ピルエッ<br/>ト、ダブルカスケ<br/>ード<br/>※這い性<br/>サクセス</p> | <p>12月～5月播き。発芽適温 20～<br/>25℃。セルトレイなどに播く。10～<br/>12日で発芽する。発芽後は最低 12℃<br/>以上で管理する。</p> <p>本葉3～4枚で鉢上げする。培養土<br/>は赤土やピート、完熟たい肥などを混<br/>合し、緩効性肥料を1～2g 添加する。<br/>葉色をみながら窒素濃度 200ppm 程<br/>度の液肥を適宜追肥する。4月以降の<br/>高温長日で徒長しやすくなるので注<br/>意する。</p> <p>品種は極小輪から中輪、大輪、八重<br/>咲き、フリンジ咲き、這い性など多様<br/>化している。</p>   | <p>病害虫：ウイルス病、<br/>斑点病、ヨトウ<br/>ムシ類、アブラ<br/>ムシ類</p> <p>出荷：4～7月。数輪<br/>開花した時</p>          |
| <p>19. マリーゴールド<br/>(キク科)<br/>20～40 粒/ml</p>                   | <p>フレンチ系<br/>サファリ、デュラ<br/>ンゴ、ボナンザ、<br/>ディスコ</p> <p>アフリカン系<br/>プラウドマリー、<br/>パーフェクション、<br/>ディスカバリ<br/>ー、ポルックスオ<br/>レンジ</p> <p>テヌイフォリア<br/>系<br/>ルナ</p>                  | <p>12～7月播き。発芽適温 15～20℃。<br/>セルトレイなどに播き、播種後は薄く<br/>覆土する。3～4日で発芽する。発芽<br/>後は日中 15～20℃、夜間 8～10℃で<br/>管理する。</p> <p>本葉2～3枚で鉢上げする。リン酸<br/>が欠乏すると生育や花の発達が悪く<br/>なる。生育が早く、また日当たりを好<br/>むので、葉が触れ合うようになったら<br/>徒長しないように、鉢間隔を広げる。</p> <p>一般にフレンチ系品種は高温長日<br/>で開花しにくいので、真夏の出荷は避け<br/>た方がよい。アフリカン系品種は長<br/>日性が強いので4～9月の出荷に適す<br/>る。</p>                           | <p>病害虫：青枯病、ハ<br/>ダニ類</p> <p>出荷期：1番花が開<br/>花をし始めた<br/>頃。霜の心配が<br/>ない5月以降が<br/>望ましい。</p> |

|                                    |   |  |            |
|------------------------------------|---|--|------------|
| 20. ロベリア<br>(キキョウ科)<br>10,000 粒/ml | リビエラシリーズ<br>レガッタシリーズ<br>キュラソーシリーズ<br>アクア系 | 9~10月播種で4~5月出荷。浅い育苗箱やセルトレイなどに播き、覆土はしない。発芽適温は15~20°C、播種後2週間くらいで発芽する。<br>本葉5~6枚で鉢上げする。凍らない程度の加温か、最低5°Cくらいで管理するが、日中は高温にならないようよく換気する。生育中は月に1~2回程度液肥を施用する。早期出荷するには栽培温度を10°C以上とする。 | 病害虫：ア布拉ムシ類 |
|------------------------------------|---|--|------------|

## 4 シバ *Zoysia* イネ科シバ属



### 栽培上の留意点

- 1) 混種のない優良系統の種(品種)芝を用いる。
- 2) 適期作業の励行, 葉刈り, 施肥, 除草作業が良い芝づくりの基本である。
- 3) 定植すると6~7年栽培が続くので, 新植・改植時に十分な土づくり・土壤改良を行う。

| 月<br>作型 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| 1年目     |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
| 2年目     |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
| 3年目     |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |

(■出荷)

(生育が非常に良好なとき)

(生育状況及び需要により切り取り時期は変わる)

### 収量目標

植付け2年目以後, 年1回100束/a (収穫率90%)

### 品種

つくばシリーズ, ヒメコウライ, ノシバ等 (いずれも系統差, 混じりのない芝を選ぶ)

### 定植準備

10aあたり堆肥3,000kg, ようりん又は苦土重焼りん50~60kg, 有機石灰100kgを全面に施し, プラウ等で深耕する。整地の良否は芝の生育だけでなく作業能率に大きく左右するので, ハロー等で丁寧な細土・均平作業を行う。

### 定植

畦幅30cm, 深さ10cmに溝をつくり, 8~10束分の種芝を手でほぐし, 溝に植えていく。根が隠れる程度に足で覆土鎮圧し, 乾かないうちにローラーで1回鎮圧する。主流の溝植えの場合, かん水は行わない。平植えでは, 植付け後ほ場の乾燥が続く場合, 活着を促すため根部が露出しない程度にかん水を行う。

### 葉刈り

生育期には10日おきに実施し, 分枝の伸長を促進させ, ターフが密になるように管理することで, 腰高も防ぐ等品質が向上するほか, 病害虫の防除, 雜草の防除, 混じりの防止効果も期待できる。葉刈りは, 既植園では, 6~9月にかけて毎月2回以上を目標に実施し, 10月の止め刈りは浅刈りする。また生育状況によって休眠明け及び出荷前の時期にも実施する。

新・改植園では生育期前半の葉刈りは行わない。地上部刈高はノシバで2cm, コウライシバで1cmを目安にする。刈り取った刈り葉は外へ持ち出す際, スイパーを効率的に利用する。

### 除草管理

春、秋の土壤処理によって雑草の発生を防ぐことが基本となる。春は桜（ソメイヨシノ）の開花始め、秋はヒガンバナの開花初めが処理適期である。ただし、収穫後及び改植後には考慮する。土壤処理を「主」、茎葉処理を「従」とする。

| 除草体系      | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|-----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| 土壤処理（春、秋） |   |   |   |   |   |   | ↔ |   |   | ↔  |    |    |
| 茎葉処理      |   |   |   | ↔ | ↔ |   |   |   |   | ↔  |    |    |

土壤処理時散布水量は 10L/a とし、むらなく均一な処理層をつくる。

### 施肥管理

芝畠は表層が固まっており、濃度障害等が発生しやすいので、一回当たりの施肥量を抑えて、回数及び間隔でコントロールする。

| 施肥成分量 (kg/a) | 1 | 2 | 3   | 4   | 5   | 6   | 7   | 8   | 9   | 10  | 11 | 12 |
|--------------|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|
| 硝安化成肥料       |   |   | 0.3 | 0.3 |     |     |     |     |     |     |    |    |
| 普通化成肥料       |   |   |     |     | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.3 |     |    |    |
| PK の多い化成肥料   |   |   |     |     | 0.3 | 0.3 |     |     |     | 0.3 |    |    |

3~4月は速効性肥料を用い初期生育を促す。5~6月はランナーの伸長に最も重要な時期（梅雨前）なのでP, Kを重視する。7~8月は飛びランナーが発生しやすいので、肥料が速効的にまた、過剰吸収しないように注意する。

休眠期 1ヶ月前となる9月は貯蔵養分を吸収する時期のため、P, Kを中心補給し、10月には蓄え肥を施す。肥料の総施用量は N, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>, K<sub>2</sub>O それぞれ成分で約 3kg/a を目安にする。

収穫後は直ちに、ようりん又は苦土重焼りんを 10~15kg/a、有機石灰等を 10kg/a 施し、さらに萌芽 10%頃に 3 要素とも成分で 0.2~0.3kg/a を施用する。

なお、施肥量は連作年数、収穫時期、回数、品質も考慮して実施する。

### 病害虫

糸状菌病：さび病　葉腐病　擬似葉腐病　白絹病　炭疽病　白葉病

害虫：スジキリヨトウ　コガネムシ類

### 生理障害

黄化症：除草剤散布、施肥、鉄分不足、pH などが関係しており一種の生理障害と言われている。1a 当り水 10 リットルに硫酸第一鉄 0.1kg と尿素 0.1kg を溶いて展着剤を加えた溶液を葉面散布すると 7~10 日で回復する。しかし根本的には改植、土壤改良が必要である。

### 収 穫（刈取り）

ターフ形成が完全になった時、規定の大きさ（主に 26×35 cm）に切り収穫する。次期収穫まで約 10 ヶ月養成する。芝の養分吸収量が最大となる 9 月中旬から 10 月中旬や、収穫後の根が寒害を受けやすい厳寒期に収穫した場合は、12か月以上の養成期間を必要とする。（新植 2 年目の初収穫後、3 年目は条件が良ければ春・秋 2 回の収穫ができるが、株への負荷を考慮すると年 1 回が現実的である。）5 年目以後収量（束数）が低下する。

### 改 植

10 年ごと（目安）